



# 会 議 録

八幡市教育委員会

開 催 日 時	平成28年8月18日(木曜日) 午後 3時00分～午後 4時25分	
場 所	分庁舎2階 会議室B	
委 員	市 長 堀 口 文 昭 教育委員長 松 下 順 英 職務代理者 布 目 有 希 子	教育委員 橋 本 陽 生 教育委員 佐 野 恵 理 子 教 育 長 谷 口 正 弘
事 務 局	教育部長 大 東 康 之 部付部長 茨 木 章 教育部次長 北 和 人	教育部次長 西 川 茂 男 教育総務課係長 林 左 和 子 教育総務課 大 崎 茂 夫

## 1. 開 会

- ・市長あいさつ

## 2. 議 題

- (1) 八幡市の学校教育と子どもの未来について

## 3. 閉会



	内 容
[ 教 育 部 長 ]	1. 開 会 定刻となりましたので、只今より平成28年度第1回八幡市総合教育会議を開催いたします。それでは、堀口市長からご挨拶をいただきたいと思います。
[ 市 長 ]	・市長のあいさつ 皆さん、こんにちは。 早いもので、前回、開催させていただいてから7カ月が経ちました。本日も、お忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。 総合教育会議は、首長と教育委員会が重点的に講ずべき施策等について協議調整を行う場とされています。おそらく経過としては、大阪維新の会の辺りが教育委員会制度について、忠実性という名の下で色々な形で戦後の有象無象の話が全く改革できていない事について、自治体の首長がついていけないのではないかとという所で、結構ストレートな改正案が出された中で、一方では、公明党が中心に忠実性の重要性をうたい、双方を足して割ったような形で、今の制度ができたのではないかと、個別の詳細は別として法律の改正の流れとしては、そのような形ではないかと思えます。教育行政の現場に直接タッチするのではなく、基本的な重点的に講ずべき施策について議論する場になったと思えます。正式には、協議調整となるようです。
[ 教 育 部 長 ]	昨年度は、総合教育会議の設置にともない、設置要領等を定めることや教育大綱の取りまとめに、委員の皆様から貴重なご意見を賜りまして、誠にありがとうございました。地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正で、次は、教育長の関係が出てまいります。旧制度の教育長は、来年の4月1日迄、新制度の教育長は、来年度の4月2日からとなります。制度としては変更になりますが、総合教育会議そのものは、既に設置しており変わらないところでございます。どうぞよろしくお願いいたします。
[ 教 育 部 長 ]	本日は、八幡市の学校教育と子どもの未来について協議してまいりたいと考えております。本日も、どうぞよろしくお願いいたします。
[ 教 育 部 長 ]	ありがとうございます。
[ 市 長 ]	それでは、これより議題に入りますので、会議の進行役は、市長にお願いいたします。市長、よろしくをお願いいたします。
[ 市 長 ]	2. 議 題 (1) 八幡市の学校教育と子どもの未来について それでは、会議次第に従いまして、議題に入らせていただきますが、フリートークとなっています。9月5日の子ども子育て会議に八幡市の就学前教育の在り方ということで、施設の再編を含めた基本的な考え方を諮問します。これは、0才児から5才児の児童数が500人から600人の間ですが、今後500人前半程度になると思えます。今後、幼稚園・保育園の就学前教育施設が過剰になる可能性があります。
[ 市 長 ]	八幡市としては、幼稚園・保育園の就学前教育をどの様に考えていくか、子ども子育て会議でご議論していただこうと思っております。今までは、児童数が減少していても就園率が増えていましたので、ある程度カバーできていましたが、今年度から3オクラスで10人前後の園が出てきました。行政の調査報告では、出産について一般企業の現場の理解も進んできており、育児休業が終わった1年目位からの保育所需要が高まる一方で、幼稚園の通園する園児数が少なくなっています。望ましい幼児教育を進めるうえでも、一定のところを考えていかなければなりません。
[ 市 長 ]	一方で、民間の幼稚園・保育園にお願いしていますから、そちらとのすみ分けをどうするのかという事もありますので、その辺りを平成27年度に行政内部で検討したことはあります。その時の方向性としては、こども園側の推進で対応すべきであろうとのことで、具体的な事は別にしまして、その方向で対応しないと一定の規模が確保できないという結論を行政サイドであげました。



しかし、それが正しいかどうかについては、市民の皆様を含めて意見を頂きながら、客観情勢は同じでもどのような形であるのかを行政だけで進めるのではなく、市民の皆様のご意見をお伺いし進めたいと思っていますので、今年の幼児教育の中での大きなイベントだと思っています。

私も2期目になり、学校教育については、教育委員会にお任せするのが基本的には一番良いと思っています。私の1期目では、教育現場に負担をかけない、行政サイドで経費をかけても現場には負担をかけない、という事で取り組んできたつもりです。議会等で批判などはあります。2期目になれば少し、学校現場の方もそういう形で、ある程度市として投資していく中で、学校現場としてどの様に努力してもらえるのか、聞きたいと思っています。工夫をお願いしたいです。あまり強制するつもりはございません。

次に、教育の中身ですが、多忙でそのような事を考えるゆとりもないと言えばそうなのですが、ここまで教育にかけている自治体は、近隣では少ないはずですが。何のためにそこまでかけているかという点、子どもたちの教育を十二分に考えていただくために血税を割いています。校舎長会の歓送会に出席した時に常に言っていたのが、極論ですが、職員の給与を削った部分を教育現場に投資しているので、決してゆとりのあるお金でやっているのではないという事を申し上げます。同じ労働者として言うのであれば、それ位の重みをもったお金を教育現場にさせていただいているので、校長の皆さんを含めて捉えていただきたい、というつもりで言いました。とは言っても、どういう形なのか分からない部分があります。

先生方が、自分の生き様として、これは実現という形でやってきたという事を語れる場がなかったら本当は駄目じゃないかと思っています。私は、職員の時代から運を呼ぶ生き方があると言っていました。それは、感謝の念を忘れない事です。もう一つは、人としての生きようとして、有りようとして、どうなのかと常に考えてきた方です。教室の場でも何かにつけて、そういうような事を一つは先生方も折に触れてやってもらおうような、そういう事がベースとして、学力じゃなくて、あるのじゃないでしょうか。

ヘックマン氏の書の中に、「恵まれない子どもたちへの公平なチャンス」が原題ですけれど日本訳は、「幼児教育の経済学」ですね。その中の非認知能力（学びに向かう力や姿勢）教育を幼児教育で受けている子どもの方が、アフリカ系アメリカ人の離婚率が少ない等、生きざまとしての教育をある時期に受けていることが大切であると共に、思春期までにそういうことを家庭教育等で真剣に語り、意識していることが大切だと思います。学校現場では、道徳教育という形で言われているのは、抵抗が強いと言われています。

もう一つは、比較的先生方は、客観主義のようであって主観視にあるわけです。あえて言わせてもらえば、私が小学校のPTAをしていたとき、民主的に子どもを育てる云々等が書いてありました。そうなれば、学校長以下が民主主義が何かを含めて、大いに語れなければならないし、PTA会議の民主的な運営と校長室の権限をふまえた民主的運営ができていないことが前提でないで本来出せないのですが、あまり感じられませんでした。私は、学校教育については、批判的です。問題ありと思っています。但し、八幡の教育は、それなりにやってもらっています。評価もするかわりに、そういうこともあります。それは何かと言いますと、言っている事とやっていることが一致しているのか、言っていることが十分できていますか。これがおそらく教育総合会議を作ったレベルの本場の流れだと思います。政治的な流れで色々言われていますが本当のところは、そういうところだと思います。

もう一つは、国語力をどのようにつけるのかについて、私は長文の小論文程度の丸暗記を5年生・6年生に徹底的にさせるのが、おもしろいと思っています。これは、



全員に強制するのが、問題かもしれません。しかし、一定の学力以上者には、効果的な話だと思います。私の中学時代の経験上、少しそういう事が大切だと思います。このような事を具体化し実施されるのは、学校の先生です。

学校の先生方が実施するものは、少しハードルの高いものができればいいと思います。しかし、それも現場にお任せする事が基本なので、如何なのかとは思っています。1回目の総合教育会議でもあるので、私の思いだけを少しお話ししました。

私ばかりお話しするのは、如何なものかと思っています。

私は、非難するつもりは全く無く、限界があるのではないかと考えているだけです。

日本人は、批判的だといわれています。調べてみますと、ドイツ語のクリティークから来ているとのこと。クリティークの意味が批判の事。もう少し優しく言えば、物事の限界の指摘が批判の本来の意味です。例えば経済学批判とは、現在の政治経済学の限界を明らかにしたものです、というのが批判の意味なのですが、日本語の場合は、+「駄目ですよ」が入ってしまいますが、言語的には、そういう事は無いので、ヨーロッパの人たちが強く言い争いをしても批判の意味合いが無いので、争い後仲良く談笑できるわけです。私の役所時代に批判しているつもりですが、非難の意味はないことを前提において、それ以外は評価しているのですが、「ここがね。」とよく言っていました。教育とは、その様なレベルで見ていかないといけないのと、一つ一つ、具体的なステップを踏んでいけたら良いと思います。

橋本委員如何ですか。

[ 橋本委員 ]

今、市長から思いのこもった2期目のお話を聞かせていただいて、感想として大きくは、3点ございます。

1点目は、子ども子育て会議における、特に就学前教育の件でございますが、八幡幼稚園を訪問いたしました。3歳児園児が非常に少ないので心配し、こども園化を早急に、方向性を見極め進める必要がある事を痛感しました。

2点目は、基本的には教育委員会にお任せしたいと仰っていただいているわけですが、1期目も現場に負担をかけないという方向から踏み込んで、2期目では、現場の努力を問いたいと、まさに我々教育委員として、学校訪問などを通じてですが、八幡市の子どもたちを良くしたい、どの様にすれば良くなるのか、率直な意見を交換しております。

しかし、教育の現場の重さと言いますか、各現場ごとの違いと言いますか、私も委員2年目になり、1年目の現場とは変わってきているなど、今年度になって落ち着いてきているのを身をもって感じている次第です。これは、学習支援員をはじめ、多大な予算を割いていただいている行政に感謝したいと思います。

しかしながら、教育の内容を教育長から「家庭学習に課題がある」とお聞きしています。この事を考えますと、家庭にはあまり期待できなく、特に課題のある家庭については、家庭や学校の先生たちだけでなく、何らかの学習の場を提供し、学習の習慣づけを子どもたちに与えることが、義務教育段階で責任があるのではないかと、これを実施しないと変わらないのではないかと、強く思っています。

先生方への問いかけとしては、志はあるのか、先生方の立ち位置が不明確で示せないところに物足りなさを私も痛感しているところです。

子どもたちをリードし保護者たちに説得力をもって語れる教師・校長に期待しているつもりです。国語教育については、長文の丸暗記については基本的に共感したいと思っています。語学の教育は、まずは、その時のドラマ・シーンを踏まえた言語活用能力が無意識的に適切な音調で出てくるのが、言葉の教育だと思います。そういうことから丸暗記というものが体をとともなう学習だとすれば、礼儀作法等の学習・習慣づけにて、言葉の深い意味や地域の文化を踏まえた言語を身に付けるには、有効な方法だと思います。それによって得られた自信や様々な自己肯定感を伴った子どもの発



[ 市長 ] [ 布目委員 ]	<p>達を生み出す効果的な方法だと思います。</p> <p>以上です。ありがとうございました。</p> <p>布目委員、如何ですか。</p> <p>市長の仰っていました幼児教育の部分で、八幡幼稚園に訪問した際に見ました、10名程度の単学級や、橋本幼稚園の年小クラスが1クラスしかない事を聞くと、幼稚園をこのまま続けても、先が見えてくるのかなと感じます。パートをされている主婦の方であっても、幼児教育に期待して幼稚園に通わせている親御さんもおられるわけですが、認定こども園の方向へ進むのは、ある程度仕方がないのですが、幼稚園寄りの子ども園化なのか保育園寄りのこども園化なのか、現在幼稚園に通わされている親御さんが納得できるような認定こども園化を進めていければ良いと思っています。</p> <p>また、障害者差別解消法等の施行で、八幡市の充実している教育関係の予算の削減を危惧しています。私が教育委員になってから、教育現場は非常に落ち着いたと感じていますが、それが学力に結びついているかと言えば、必ずしもそうではないと思います。</p> <p>しかし、この落ち着いた学校現場を育てたのは、学習支援委員を含めた色々な施策だと実感しています。また、必要施策重視の予算作成をお願いいたします。</p> <p>以上です。</p>
[ 市長 ] [ 佐野委員 ]	<p>ありがとうございます。</p> <p>佐野委員、何かございますか。</p> <p>はい、初めて参加させていただいて、各学校の内情を詳しく理解していないのが現状なのですが、市長の今の話の中のこども園化や橋本委員の学校支援員の必要性は、あると思います。</p> <p>また、布目委員の保育園と幼稚園の考え方に違いがあるのは、以前から、それぞれの意見がありますが、八幡市では有都幼稚園が幼稚園と保育園合同の幼児園として運営した実績があるので、幼稚園のこども園化も上手く運営できるのではないのかと聞いていましたが、布目委員が発言された、現状の園児の親御さんの考え方はどうなんだろう、と思いました。</p> <p>もう一つは、学校支援員に関しての教育の仕方で、家庭と学校と子どもたちとの連携が、スムーズに機能すれば、学力低下は、これ以上下がることは無いと思います。こども園や先生の考え方は、全てが学習支援員等の係わっている人たちに関係するので、最終的には、子どもたちの学力をどのようにするのかなので、今年度からそこを見据えて勉強したいと思います。</p>
[ 市長 ] [ 松下委員長 ]	<p>委員長は、どうですか。</p> <p>委員当初は、学校訪問時等で吃驚しましたが、昨年後半から学校現場がかなり落ち着いていると思います。</p> <p>八幡市の学校に対する満足度という、一つの資料として見たところ、こんな素晴らしい数字になっているのかと思いました。子どもたちそれぞれで答える基準は違うと思いますが、小学生で約9割、中学生で約8割が楽しいと答えている実態が既にあるという事です。3年ごとに調査し、学校が楽しいという数値と、それに関連する項目の数値が上がってきているのは、大きい事だと思います。これからの課題としては、子どもの生活面において、学校以外での学習の場、学習の時間等、質も含めて全くしない子どもの率が高いのが課題だと思います。</p> <p>学校が子どもたちの授業以外の学習をどの様に変えるかという具体案が見えてこない。放課後の時間等の使い方を変えていくには、色々な施策が必要だと思います。子どもたちのレベルを上げるには、楽しいだけじゃなく、先生方が質の高い学習を工夫していく必要があると思います。</p>
[ 市長 ]	ありがとうございます。



一般の親御さんたちは、学力が高く、成績の良い方が良いと思っているようですが、運も実力のうちで、成績の良くない人が運が良かったり、他の分野で才能があったりするもので、一概には言えないと思います。現に、私も好きなように子育てしていますので、そう思うわけです。

最近読んだ本から言いますと、私の個人的な考え方で、「教育はかくあるべきだ」という事は、エビデンス（科学的根拠）が無いので、アメリカでは2000年位で終了し、現在では、「エビデンスを基に語りなさい」というのが、現在のアメリカの教育を語る政治家の最低のラインであれば、今後は、色々な仮説に基づいた調査結果を読ませてもらって意見を言わないといけないと思います。日本の現状では、少し許されているので、お話しさせていただいています。同じことをイメージしていても、各人各様の捉え方があって、議会の学力向上会で、あなたの学力観は何かと問われて、ロシアの心理学者のレフ・ヴィゴツキーの最近接領域論（ZPD）がアメリカにおいて再評価されているもので「可愛い子には、旅をさせろ」を理論づけているものです。それをお話しすると、それ以上は追及されなく終わりました。

現場の先生方とは、ハワード・ガードナーの「多重知能理論で理論が定める8の知能」が具体的で分かり易いとお話しています。私が総論部分で求めているのは、成績の良い悪いに関係なく、問題意識を持ち、国語は一定レベル以上でないといけないと思います。また、脅しの教育からの脱皮は、出来るようで出来ない課題です。その子の内在的な要求を触発することは、難しいところがあります。

1期目は、議会で学力向上について色々質問されましたが、最近はあまり問われなくなりました。個別の施策の質問だけです。その分浸透してきたのかと考えています。6月議会では、スマートウェルネスについて、議員の皆さんがそれぞれ勉強されて、ハイリスクアプローチやポピュレーションアプローチ等々の発言がありました。谷口教育長は、如何ですか。

[ 教 育 長 ]

色々なお話が出てきたので、なかなか焦点を絞るのは難しいのですが、アメリカの大学でAI（人工知能）の進化により、現在の5割から6割の仕事が無くなると聞きましたが、教師は、AIに変われないだろうと聞いています。八幡市の研修大会の挨拶でも少し触れましたが、有名なゼミの講師がビデオで話をして、学習意欲のある子は、聞いて学力を上げている等、府立高校でも取り組んでおられたりします。

それはそれで、否定はしませんが、義務教育の中でそれが可能かどうか、教員という職業が無くなって、ビデオ等で本当に教育ができるのかどうか、市長が言われた、教員の立ち位置の話を含めた部分が基本だからこそ、AIに取って代われない職業だと思います。

逆に言えば、取って代われない教員にならなければなりません。ビデオの授業の方が良いのじゃ困るわけで、教員が自分の生き様をどの様に子どもたちの前で証明していくかです。

僕が目指していたのは、こんな先生は嫌だけれど、それは一つの大人像として、こんな先生にはなりたくないが、私は、こんな大人になるんだという所を子どもたちが、持ちながら、教員が様々な大人像を子どもたちに示す中で、子どもたちが一つのモデルとしての考えや判断を持てるようになってほしいと思っています。

授業の上手い先生が、子どもたちの記憶に残る先生じゃないのです。自分の生き方や刺激を与えていただいた教師を良く覚えているし、そういう事が次の学習意欲につながっている部分もあると思います。これは、原点的な話になります。

現実問題としては、一定の学力や国語力が無いと社会の中で遅れる部分は、現実的にあります。一定の学力を持つためには、目的意識をもって高校へ進学しないのは構わないのですが、行けないから行かないという事を作ってはいけないと思っています。高校時代に気づくこともあれば、自分の進路を考えたりする子どもたちもいるので、



[ 市長 ]

教育行政としては、子どもたちの希望する進路の実現は、大きな意味合いを持つと思います。一定の学力を付けさせてあげる事は、学校と相談しながら付けてあげたいと思います。AIに取って代わらない教員を、どの様に育てるかが課題だと思います。

ありがとうございます。

選挙権が、18才に下がりました。下がった以上は、政治のサイズにもう少し検討すべきだと思います。それは何かというと客観的な事実に対する事、政治は論争なので、具体的な政治過程で言えば、安保法制の賛成・反対がありましたが、憲法学的に言うと、憲法が優位なのか、国際法が優位なのか、国際条約の尊重義務は、日本国憲法98条にあります。国内最高規範は憲法で、法律より条約が上というのは分かります。国連憲章は、合憲なのかどうか、議論されるべきです。その合憲か違憲かの中で、個別的又は集団的自衛権が国連憲章第51条にうたわれています。政府は、このような事をどの様に議論し、違憲か合憲か等々を子どもたちに明確に説明する必要があると思います。政治の世界においても、客観的な事実に対する確認事項が、結構おろそかにされています。

また、道徳においても、主観的なものではなく客観的な事実から出てきます。この客観性については、理論的に正しいのではないかと考えています。

[ 橋本委員 ]

八幡市の学校教育と子どもの未来について、橋本委員から順にどうぞ

次期学習指導要項が目の前に迫ってまいりました。教育委員会としては、その辺りを踏まえて、先手を打つのか、他の動きを見ながら動くのか、八幡市では、先進的なチャレンジ的な教育の推進をやられていますので、早い段階での十分な議論と、他府県の視察等を含めた積極的な教育への関与を進めていただきたいと思います。特に予算を必要とする次世代への対応、例えば、プログラミング学習やデジタル教科書の導入とかタブレット化等々が予算に係わるようであれば、早い段階での方向性が必要ですし、また、社会教育の関係が出ておりませんでした。学校教育は、社会教育やその他の地域のボランティア等の八幡市民として、意識が教育とどの様に結びつくか、子どもを取り巻く環境を改善することです。

以上です

[ 市長 ]

ありがとうございます。松下委員長、お願いします。

[ 松下委員 ]

全く異なる話ですが、今年の夏にある放課後学習クラブにおいて、事務局の先生方が発案して特別講座を2回開催しました。その内の一つは、企業に協力をいただいて、普通の学校の授業ではできないような、タブレットを使用した地球の環境問題を子どもたちに分かりやすく、ほぼ1時間30分ぐらいの講義でした。

もう一つの柱はニュースポーツで、スポーツ推進委員が中心になって、新しいスポーツを子どもたちに体験させるものです。

しかし、子どもたちの反応があまりよくありませんでした。子どもたちは、学校以外の事をあまりしたくないようです。小学校5年生・6年生は、色々な体験をしたい年齢のはずだし、させなきゃいけない年齢のはずだし、体験したら楽しい事が分かる年齢のはずなんです。それを考えると、非常に残念に思います。子どもたちのやる気をどこで大人が引っ張り上げるかを考えさせられました。

以上です。

[ 市長 ]

ありがとうございました。布目委員、お願いします。

[ 布目委員 ]

一つは、来年度中に始まるであろう中学校給食が、スムーズに運用出来る事です。二つ目は、男山第三中学で実施されている実用英語技能検定試験対策を他の中学校で実施されていないところは、実施されると良いと思います。

[ 市長 ]

ありがとうございました。佐野委員、お願いします。

[ 佐野委員 ]

私は、今まで社会教育でスポーツ関係に携わっており、その時から思っていたのですが、自己の危機管理のための着衣水泳を八幡市内で普及させたいと考えています。



[ 市 長 ]

[ 教 育 長 ]

以上です。

ありがとうございました。教育長、お願いします。

一つは、教職員は、身分的には府費負担教職員で、勤めているのが八幡市なので、八幡市の子どもたちの教育に携わっている意識や予算等々様々なことについて、「八幡市」という意識が持ちにくい立場なのかと思います。特に管理職の方々には、どれだけ「八幡市」を意識しているのかどうか、私は少し気にしています。

二つ目は、八幡市の子どもたちの体力・体育面がどうなのか、全国的にも同じ様なのですが、部活動をしていない中学校女子の運動量は、驚愕するような低い数字です。教育委員会としては、学力と共に体力面の強化も重要だと考えています。

以上です。

[ 市 長 ]

どうもありがとうございます。

子ども達の目を輝かせる授業をどの様にするかですが、難しいと感じています。

今、出していただいたご意見を事務局の方でまとめていただいて、次回の協議の一つに、させていただきたいと思います。

それでは、これをもって平成28年度の第1回総合教育会議は、閉会とさせていただきます。

皆様、どうもありがとうございました。